日本では、通称『５０－７０』と言われていた新部門の名前が、９月２７日、リトルリーグ・インターナショナル広報部から発表された。名前は『リトルリーグ・インターミディエット（５０－７０）部門』で、同広報部は以下のように経緯を説明。ルールなどの詳細は近々、発表される。

リトルリーグにおいて１９９９年以来となる新部門は、リトルリーグ（４６－６０サイズ）から、フルサイズ規格であるジュニアリーグ部門（６０－９０サイズ）への過渡的なものとなります。高い技術を持つ１１～１３歳選手に離塁や牽（けん）制プレーなどの、より一般的な野球を行わせるための部門になります。

伝統的なリトルリーグ（メジャー）部門では、投球が打者に届くまで走者はベースを離れることができないので、牽制プレーは必要ありません。さらに、インターミディエット（５０－７０）部門の試合は、一般のダイヤモンドのサイズではなく、リトルリーグ部門のダイヤモンドより大きなグラウンドで実施されます。

リトルリーグ・インターナショナル理事会は、５月に開催された春の年次ミーティングにおいて、インターミディエット（５０－７０）野球部門の創設を公式に発表しました。その決定は、１１～１３歳のための新プログラムの創設において、ボランティア地区責任者による投票で、圧倒的な支持を受け、なされたものです。

過去、３シーズンについて、世界中のリトルリーグが５０－７０パイロットプラグラムについて、公認を受けていました。そして今年初め、世界中の様々な地区で実施された円卓会議での地区責任者による投票に向け、実験的なルール変更がなされていました。リトルリーグ・インターナショナルは、世界中の何千人ものボランティアと保護者のご意見を聞いたうえで新部門を創設しました。

各地方において、インターミディエット野球部門は、その親に当たるリーグと同じバンダリーから選手を集めることになります。リーグのバンダリー内に試合を組めるだけの選手がいない場合、地区責任者の推薦と公認委員会の承認を得たうえで、同じ地区の２つ以上の隣接しているリーグが合併して一つのインターミディエット・リーグを作ることができます。個々のリーグは、それ自身でインターミディエット部門の公認を得ることになります。

インターミディエット部門のトーナメント大会は、毎年のワールドシリーズで終わる構成となります。最初のインターミディエット・ワールドシリーズは、２０１３年８月、カリフォルニア州リバーモアで実施されると今月（９月）初めに発表されました。

プログラム開発担当上席副会長であるパトリック・Ｗ・ウィルソン氏は、「私たちは、インターミディエット部門が地方レベルで、柔軟に対応できるよう規則を定めました。例えば、各リーグはインターミディエット部門に、すべての適任の１３歳選手を所属させ、すべての１１、１２歳の選手はメジャー部門に所属させることができるし、１１、１２歳選手で優れている者をインターミディエット部門でプレーさせることも可能です」と述べています。

リトルリーグ・インターミディエット部門トーナメント（オールスター）に選出されるためには、選手は適正な年齢であると同時に、学校野球への参加の場合を除き、インターミディエット部門のレギュラーシーズン試合の６０％以上に参加しなければならない。

リトルリーグ・インターナショナルの規則委員会、リトルリーグ諮問委員会、リトルリーグ・インターナショナル理事会は、新しい部門に係わるその他の規則を決定するために、会合します。詳細は１１月中旬に発表の予定です。

インターミディエット部門のグラウンド規格は、伝統的なリトルリーグダイヤモンドと、標準の野球ダイヤモンドの大きさの中間にあります。投手板から本塁までの距離は５０㌳（１５．２４㍍）、塁間の距離は７０㌳（２１．３４㍍）です。レギュラーシーズンに関しての本塁から外野フェンスまでの距離は、２００㌳（６０．９６㍍）～２７５㌳（８２．５㍍）を推奨します。